

宿縁

七月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派 中原寺

TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

葉っぱのフレディに 自分の姿を見る



つい先日の朝刊のコラムにこんな記事が載っていました。

『東京都知事選で選挙ポスターが物議を醸している。品位のない掲示手法は論外だが、九州では投票を呼び掛ける選挙啓発ポスターが話題になった。問題視されたのは「他力本願知事・ほかだよりひこ」という表現だ。良くない知事の例として挙げたもので、鹿児島市の本願寺鹿児島別院などが「他力本願の使い方が本来と違う」として強く抗議。これを受けた県選管は「人まか

せ知事」に修正した。おやと思われた人もいるだろうか。平成十四年に企業の「他力本願から抜け出そう」という新聞広告が騒ぎになったことがある。元は仏教用語で阿弥陀仏が衆生を救いたいとする願（本願）のことだが、転じて辞書に「他人の力をあてにすること」と列記されている。その意味しか知らず、日常的に使う人が多いのだ。…』
こうして本来の仏教用語が分からず世情の考え方にすりかえられるのは残念です。しかし世間の物差し(世間智)しか知らず仏法(真理)を聞き学ぶことがない人たちが使用するのでは仕方ないのかもしれない。肝心なのは仏法を志す人(求道者)は、仏教のことばは正しく使用し、間違つて使用する人たちには何度でも声を上げ続けることが大切でしょうね。

る表現方法で、他の生き物にはないツールですが邪推や憶測を伴うものでもあります。「他力」・「本願」・「阿弥陀仏」といった言葉をどんなに説明したところで世間智で生きる私たちにはなかなか体にストンとおちないのです。
そこで小児科医である駒澤勝さんの「目覚めれば弥陀の懐」の本に出会えた中身を一部紹介し、他力本願について考えましょう。
まず目に引いたのは「誤解している『葉っぱのフレディ』の章」です。数年前にブームになった絵本で、森繁久彌さんの朗読を収めたCDも発売されました。深い哲学的思想がなかなか的確にわかりやすく説明されていて私もとても良い本だと記憶しています。
おおよそのあらすじはこうです。
『一本の大きな楓の木があつて、そこに何千枚もの葉っぱがついているが、その一枚がフレディである。同じように葉っぱであるダニエルやベン、クレアラとともにフレディは春に芽が出た。つまり誕生した。夏には青々とした立派な大人の葉っぱに成長する。太陽の光を十分に浴び、さわやかな風を浴びてダンスを踊り、楽しく過ごす。そして秋が来ると他のどの葉っぱともまた違う、フレディらしい美しい黄金色に身を染めて葉っぱの人生を謳歌する。しかし、いよいよ秋が深まるとともに、自分の死期が迫っていることを察知し、行く先を心配し不安に思うようになる。友達の葉っぱで物知りのダニエルが、「落葉した後、また木の栄養となって翌年の葉っぱを支えるのだ」と諭してくれる。そして冬の到来とともに、友達の葉っぱは次々に落葉する。つまり死んでいく。そして雪の多い冬の

ある日、雪の重みに耐えかねて、ついに落葉して一生を終える』という物語です。
この本ではフレディは擬人化されて、一つの生命単位として描写されています。ダニエルやクレアラなどそれぞれの葉っぱは一つの生命体であつて、それぞれ、その命を生きているように描かれています。実はこれは間違っているかと駒澤先生は言います。この場合、一本の楓の木全体が一つの生命体であつて、何千枚の葉っぱがそれぞれ一つの生命体であるわけではない。つまりそれぞれの葉っぱに統合主体があるのではない。葉っぱの一生は大きな楓の木の命の営みの現れに過ぎない。フレディが春に芽が出るのも、そして柔らかな薄緑色の葉っぱから、夏に青々として骨格がしっかりしてくるのも、次第に人の手のような形になるのも、秋に紅葉するのも、フレディが勝手にそうなっているのではない。楓の木がそうしている。フレディがそうなるのは楓の木の性である。楓の木はそういうものである。葉っぱは次元が一つ上の楓の木の統合主体に統合されているのであつて、自主独立ではない。それなのに、フレディは「自分は一つの自主独立の生命体」と思いこんでしまっている。楓の木と無関係に自分が存在するかのようになっている。自分が自分の力で変化し、自分の力で存在している自主独立の生命体だと思っている。もしフレディがこの誤りから目覚めて、「自分は葉っぱの命を生きているのではない、楓の木そのものだ」と気づいたら、今までとは全く別次元の世界が広がることになるはずである。
さあ、皆さんはこの話から何かを感じ取れましたか。よく考えてみてください。

【寺灯雑記】

○みのり会の一日研修会に参加
6/9

千葉組仏教婦人会連盟(みのり会)の主催による公開仏教講座が、千葉市にある千葉県教育会館大ホールで開催されました。当寺からは12人、全体で約200人が参加いたしました。

開会式の後、十年前にもみのり会講座で出演いただいた、篠笛奏者の片野聡師の演奏をお聞きし、その中で仏教讃歌の「しんらんさま」を伴奏、みんなで合唱いたしました。篠笛の澄んだ音の素晴らしさに感動いたしました。

第二部では、三遊亭右左喜師匠により演目「親鸞聖人一代記」の落語披露。師匠は親鸞さまの知識を深めておられ、そのお生まれから聖徳太子さまにあわれた頃までのお話を、扇子や手拭いを使い表情言葉巧みに表現され大笑い。どんどん落語の世界に引き込まれていきました。

あつという間に時が流れ、研修が終了。企画計画された役員の方々に感謝いたします。



○文化講演会の講師に山極壽一氏決定!
今秋十月十九日(土)に開催される第三十四回文化講演会の講師に人類学者・霊長類学者として知られる総合地球環境学研究所所長山極壽一氏に決まりました。

山極先生はゴリラ研究の第一人者として知られ、京都大学の前総長でもあります。著書も多く、「ゴリラ」「暴力はどこからきたか」「サル化する人間社会」「スマホを捨てたい子どもたち」「共感革命」ほか多数。会場はいつもの市川駅そばの山崎製パン企業年金会館で午後一時三十分開催します。

なぜ、ジャングルの弱小動物が地球の覇者になったのか?
なぜ、繁栄を謳歌していたはずの人間は滅びかけているのか?
人間はどこで間違えたのか?
そして、未来への希望とは?
どうぞ今からお楽しみにご来場ください。

【仏事Q&A】

Q、お盆にご先祖がかえってくるのですか?

浄土真宗の教えでは、浄土に往生し、仏さまに成られた方は再びこの世に還ってくることを説きます。

浄土に往生することを「往相(おうそう)」といい、浄土に往生した者がこの迷いの世に還ってくることを「還相(げんそう)」と

いいいます。往相も還相も阿弥陀如来の願いのはたらきによって成立します。浄土に往生した者は、そのまま浄土にとどまっているわけではなく、苦しみ悩む私たちを教え導くというはたらきが、阿弥陀如来によって恵まれます。

ところで、この世に還ってくるというても、ご先祖だけでなく、浄土に往生した者は仏さまと成って、慈悲の心を起こして、あらゆる者を救うために還ってくるのです。そのはたらきは、私たちがどのような状況であっても、私たちが教え導いてくださるのです。したがって、お盆だけでなく、いつでも常に私たちが導くために還ってきているのです。このように仏さまと成られた方は、常に私たちが阿弥陀如来の教えへ導いてくださっています。

『仏事Q&A 浄土真宗本願寺派』

【法座・行事のご案内】

○婦人会法座

*七月六日(土) 一時(御文章に学ぶ)

「五帖九通の解説」 前住職

○壮年会法座

*七月七日(日) 三時

「七高僧に学ぶ―曇鸞大師」 住職

○子育てサロン(パンダっ子)

*七月八日(月) 十一時〜十四時

○常例法座

*七月二十一日(日) 一時

講師 西原大地師(柏市西方寺)
☆中原寺ファミリーパーティー
※七月二十八日(日)

十三時三〇分 受付開始
十四時 開演

・津軽三味線ライブ&演奏体験

・濱谷幸平氏(しぶや流家元)

第二十四回津軽三味線全日本金木大会にて最高位となる仁太坊賞(優勝)を受賞。第二十五回津軽三味線全日本金木大会団体の部優勝。

・ビンゴ大会
十六時 終了予定

*その他、かき氷や飲み物、軽食の販売や採れたて野菜市を開催予定!

*参加されるかたは七月十五日までに人数をご連絡ください。

ぜひ気軽にご家族、お子さま連れ、知人をお誘いになって夏祭りのひとときをお楽しみください。

○心を整える会

*八月三十一日(土) 十時〜昼

座禅、写経など予定(詳細は八月号に)興味がある方はお寺にお知らせください。若い方のご参加もお待ちしています。

※七月の親鸞セミナー(無量寿経解説)は休座します。

【七月の掲示板のことば】

仏教なんてカンケーない! あなたの人生